

富士見の歴史講座 明治維新から「富士見」誕生までの近代と現代  
第五回 平成26年7月12日(土)10:00~12:00

## 「富士見」誕生

生涯学習課文化財担当 加藤秀之 氏

「富士見」誕生という今回のテーマは、昭和28年10月、町村規模の適正化を図り、地方行政の簡素・合理化、地方自治の基盤強化を行うため3年間の時限立法として「町村合併促進法」が制定された。結果から見ると、時限立法の期限切れ日（昭和31年9月30日）に「富士見村」が誕生した。

合併に関わる、その間の動きを、鶴瀬村の「行政文書」から説明されました。富士見市域の近隣の村々を含め、各々の立場・利害があり生々しく聞かせてもらいました。「富士見」という村名についても、『埼玉県市町村合併史』によると、関係三村合併幹事会（各村8名ずつをもって構成）において投票の結果、決まったという。実際の決定日は9月22日~23日と考えられ、期限切れ日の一週間前ということになります。当事者は大変であったことが窺われます。

週前半の台風8号報道により、一時は講座が開けないのでは？と心配しましたが、一転、大変に蒸し暑い日となりました。今日も49名の多くの受講でした。





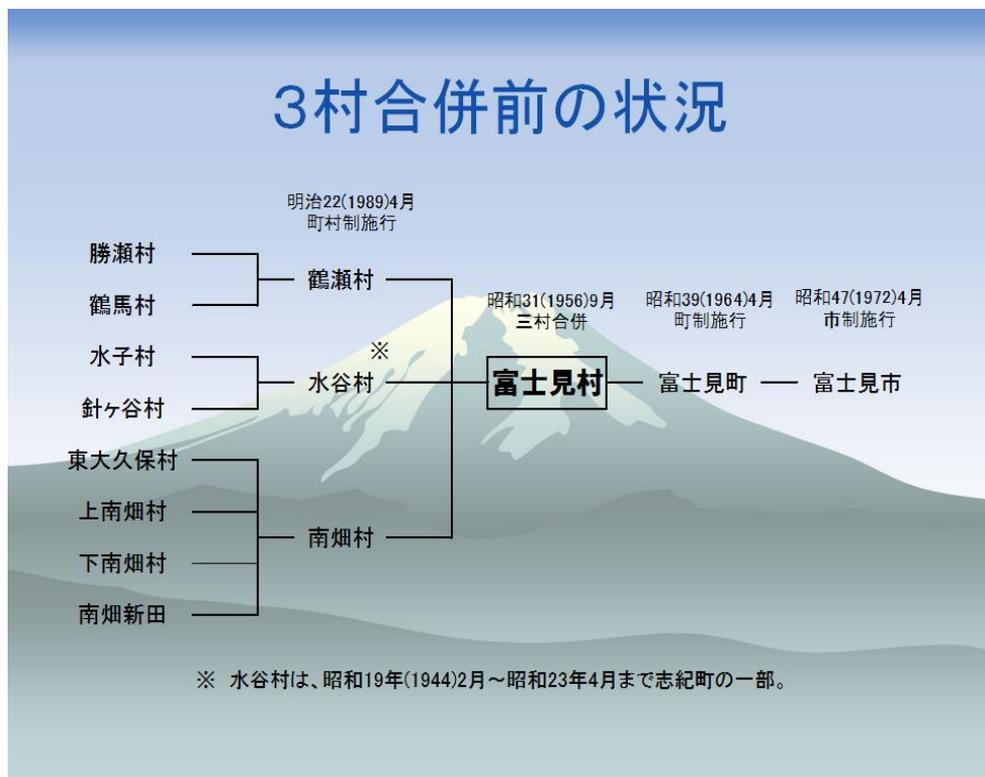
以下、レジメの大項目と一部補足でプロジェクターに映し出された映像の切抜を入れておきます。講義内容を思い出してください。

<レジメ>

1. はじめに

〇〇富士が見える場所という意味の地名は全国に400以上あるとされる。自治体名称としては、富士見市と富士見町の2つだけである。

2. 3村合併前の状況



### 3. 町村合併促進法と埼玉県の動向

| (北足立郡) |            |              |        |        |       |
|--------|------------|--------------|--------|--------|-------|
| 番号     | 新町村人口      | 同上面積         | 合併関係町村 |        |       |
|        |            |              | 町村名    | 人口     | 面積    |
| 2      | 人<br>26316 | 平方杆<br>30.73 | 朝霞町    | 11,864 | 10.80 |
|        |            |              | 大和町    | 10,240 | 10.93 |
|        |            |              | 片山村    | 4,212  | 8.98  |
| 3      | 22,038     | 35.42        | 宗岡村    | 2,762  | 5.74  |
|        |            |              | 内間木村   | 2,821  | 8.14  |
|        |            |              | 水谷村    | 2,649  | 4.58  |
|        |            |              | 志木町    | 6,959  | 3.08  |
|        |            |              | 大和田町   | 6,847  | 13.88 |

水谷村は、  
宗岡村(志木市)・内間木村(朝霞市)・志木町・大和田町(新座市)

| (入間郡) |        |       |        |       |       |
|-------|--------|-------|--------|-------|-------|
| 番号    | 新町村人口  | 同上面積  | 合併関係町村 |       |       |
|       |        |       | 町村名    | 人口    | 面積    |
| 1     | 20,591 | 48.13 | 大井村    | 4,535 | 8.14  |
|       |        |       | 鶴瀬村    | 4,332 | 7.23  |
|       |        |       | 南畑村    | 3,667 | 7.85  |
|       |        |       | 三芳村    | 4,280 | 15.42 |
|       |        |       | 柳瀬村    | 3,777 | 9.49  |

現入間東部の多くの町村  
柳瀬村(現所沢市)

| (市) |         |        |        |        |       |
|-----|---------|--------|--------|--------|-------|
| 番号  | 新町村人口   | 同上面積   | 合併関係町村 |        |       |
|     |         |        | 町村名    | 人口     | 面積    |
| 6   | 107,868 | 116.26 | 川越市    | 52,820 | 17.17 |
|     |         |        | 芳野村    | 4,500  | 10.63 |
|     |         |        | 山田村    | 3,398  | 6.26  |
|     |         |        | 古谷村    | 5,454  | 12.14 |
|     |         |        | 南古谷村   | 5,347  | 8.78  |
|     |         |        | 高階村    | 5,534  | 5.91  |
|     |         |        | 福岡村    | 7,461  | 6.79  |
|     |         |        | 福原村    | 4,841  | 11.92 |
|     |         |        | 大東村    | 6,912  | 11.55 |
|     |         |        | 名細村    | 5,546  | 12.32 |
|     |         |        | 霞ヶ関村   | 6,055  | 12.77 |

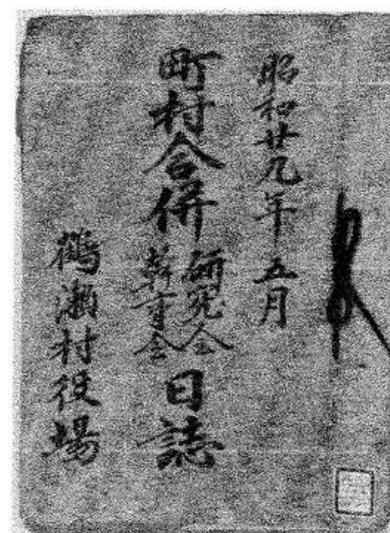
福岡村は、  
川越市のブロック

### 4. 鶴瀬村「町村合併研究会幹事会日誌」にみる合併の経緯

日誌は、昭和29年5月6日の村研究会の発足から始まり、昭和31年10月7日の3村合併の祝賀式開催通知文書までが、ほぼ時系列で綴られている。

日誌は2年5ヶ月が継続されているのではなく、発足から昭和30年4月12日に協議不調により一度中断されるまでの約1年(1期)と、昭和31年8月12日から再び合併協議が行われて富士見村が誕生するまでの約1ヶ月(2期)に区分できる。

なお、以下の記述はあくまで鶴瀬村からの立場であることを留意されたい。



(1) 第1期（昭和29年5月～昭和30年4月）

日誌には、議事録とは別に事前調査内容がブロック研究会前の情報交換内容かは不明であるが、各村研究会等の様々な意見がまとめられている。

＜鶴瀬村、大井村、福岡村、南畑村、三芳村＞

結局は、不調に終わり、鶴瀬ブロックでの合併は中断する

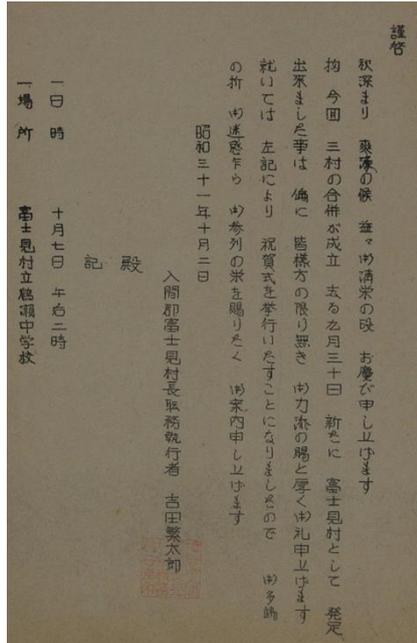


(2) 第2期（昭和31年8月～9月）

昭和30年4月に中断してから1年4ヶ月後の昭和31年8月、再び鶴瀬ブロックで合併が急速に進展する。これは、町村合併促進法の期限切れ（9月30日）が目前に迫ったためである。そして、期限日に成立。

◆ 9月 23日  
「三ヶ村合併について報告」  
「鶴瀬、南畑、水谷の三ヶ村の合併が決定し新村名も「富士見村」と決定」

昭和31年9月30日  
「町村合併促進法」期限切れの日に「富士見村」が誕生



←三村の合併が成立  
 その、祝賀式の案内状  
 (祝賀式10月7日)  
 (発送日10月2日)

5. 他村の合併の動向

(1) 柳瀬村

◆ 柳瀬村

- ・「所沢市を希望して居るので御諒承願いたい」
- ・鶴瀬ブロックを昭和29年6月から欠席
- ・所沢市に対して合併を申し入れ
- ・8月には所沢市議会で合併を決定
- ・昭和30年4月に三ヶ島村とともに合併

(2) 三芳村

(3) 大井村

◆ 三芳村

- ・当初はブロック合併に賛同
- ↓
- ・大井村、鶴瀬村の2村との合併に動く
- ↓
- ・意見まとまらず  
上富地区は所沢市へ、自主独立も
- ↓
- ・昭和31年9月  
鶴瀬村との合併の誓約書交わすも破棄

◆ 大井村

- ・当初はブロック全体の合併
- ↓
- ・意見対立  
福岡村(亀久保・鶴ヶ岡等)  
鶴瀬、南畑村(大井・苗間等)
- ↓
- ・昭和30年3月村合併研究会解散

## 6. おわりに

今回は、富士見村誕生までの経緯を鶴瀬村の立場を中心に見てきたが、これは鶴瀬村側からの一側面に過ぎない。富士見市保管の行政文書で南畑村役場「町村合併関係雑書綴」、水谷村役場「町村合併関係綴」や、ふじみ野市(旧上福岡市・旧大井町)、三芳町から見ると合併までの経緯を多面的に捉えることができる。今後の課題である。

以上です。

※富士山を望める場所マップ（赤色）が紹介されました。  
関東平野が富士山が見える場所ということになります。

